



# チャイルドが暮らす地域のご紹介

World Vision

この子を救う。未来を救う。

IDN-197362

チャイルド・スポンサーシップは、1人の子どもを対象にしたお金や物の提供ではありません。支援地域の人々が、子どもの健やかな成長のために必要な環境を整えていくことを支援するプログラムです。チャイルドが暮らす地域と、現地でワールド・ビジョンが実施している開発プログラムについてご紹介します。

## 国情報

### インドネシア共和国



東南アジア南部に位置し、約18,000の島々からなる島嶼(とうしよ)国家。国土は日本の約5倍の広さで、人口は約2.5億人です。国民の大半がマレー系(ジャワ、スンダ等約300種族)で、多くの民族語が話されていますが、公用語はインドネシア語です。宗教はイスラム教が主流です。



出典:外務省

## 地域情報

### トウナ地域開発プログラム (IDN-197362)



トウナ地域開発プログラム

ジャカルタ

支援期間: 2009年~2021年\*

\*支援期間はプログラム準備期間を含みます。支援終了予定日や活動の目標は、予期しない突発事項やプログラムの進捗状況により、変更される場合があります。

首都のジャカルタから北東に約2,100km、スラウェシ島にある中部スラウェシ州トジョナウナ県アンパナテテ副郡とウルボンカ副郡で、プログラムを実施しています。支援地域では主にタア族とバレー族が暮らしています。県の中でも特に貧しい地域で、土地の起伏が激しく、道路など交通のインフラ整備が遅れています。住民の多くは伝統的な農法で農業を営んでいますが、生産性が低く、収穫量が安定しません。貧しさゆえに、子どもの教育や健康が後回しにされがちです。

## 地域の課題



イスがないため床に座って学ぶ地域の子どもたち

### \$ 貧困

➢ 国の平均(約11%)を上回る

**高い貧困率\***(約19%、2015年)

\*各州の定める基準に基づく(トウナ地域では1人当たり月収約26ドル以下)

➢ **生産性の低い**伝統的農法による**農業**

➢ 農作物を適正な価格で売るための**知識不足**

➢ 貯蓄の習慣がなく**高利貸しに依存**



### 次世代の育成

親の貧困が子どもの**教育**や**健康状態**に影響



支援地域の住居の様子

# \$ 貧困

地域住民の多くが、伝統的な農法で米やトウモロコシ、ココナッツなどを栽培していますが、生産性が低く収穫量が安定しません。また、農民グループが共同で買取業者と価格交渉をするなどの知識が不足しているため、不当な安値で作物を買い叩かれてしまいます。加えて、貯蓄の習慣が根付いていないため、家計が逼迫すると高利貸しに頼り、さらに借金を抱えるという悪循環に陥る世帯が少なくありません。



地域の人々が十分な収入を得て、借金に頼らず家計を管理し、子どもたちを養い育てていくことができるよう支援します

## ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 安定した収穫を得るための有機野菜栽培等の農業技術研修
- 母親グループに対する、家庭菜園での野菜栽培と販売方法の研修
- 農作物を共同で販売するための農民グループの強化と研修
- 家計管理や貯蓄に関する研修
- 加工品の製造販売など、農業以外の生計手段に関する研修

# 次世代の育成

日々の生活で精一杯の家庭では、子どもの教育や健康管理が後回しにされがちです。実際に、県の小学校への入学率は約99%、中学校では約80%と高いものの、高校への入学率は約36%と大きく低下します。高校が遠いため、進学せず家の手伝いをする若者が大勢います。また、子どもの栄養状態も悪く、慢性的栄養不良による低身長5歳未満児は22%に上ります。



子どもたちの権利が守られ、心身ともに健全に成長できるよう支援します

## ワールド・ビジョンが行う支援活動

- 教育の重要性や子どもの権利に関する啓発活動
- 手洗いなどの衛生習慣に関する啓発活動
- 10代の若者の主体性を育てるリーダーシップ・トレーニング



## 支援はチャイルドの生活を変える力となります

ファジャルディン君(写真左)は、高校に通いながら両親のトウモロコシ畑を手伝う、ごく普通の若者です。しかし、ワールド・ビジョンのリーダーシップ・トレーニングに参加し、活動を始めてから大きく変わりました。

ファジャルディン君は仲間と話し合い、村を良くしていくための若者向けの集会を開く計画を立てました。しかし、集会を実現するには役所から許可を得、必要な寄付を集めなければなりません。ファジャルディン君は、うまく話せるか不安でしたが、仲間と一緒に役所へ説明に行き、企業を回って寄付集めをしました。

「活動を始めたばかりの頃は、ワールド・ビジョンのスタッフが、なぜぼくたちに役所との交渉や寄付集めを自分たちだけでしよう言うのかわかりませんでした。しかし次第に、ぼくたちをリーダーとして育てようとしているのだと気付きました」と話すファジャルディン君。今では、年長者にも耳を傾けてもらえるような存在になり、村を変えていきたいと考えています。

ワールド・ビジョンは、ファジャルディン君のような若者たちが自分の可能性を見出し、将来への希望を持って成長できるよう、支援活動を行っています。